

令和 7 年度 逆川林道災害復旧工事

設 計 図

図面枚数 表紙含め 7 枚

分 類	林道（森林基幹道）		規 格	2級B
位 置	栃木県日光市鬼怒川温泉滝 字丸山国有林63- I ㊟5林小班			
延 長	8.6	m	国有林内	8.6 m
			国有林外	m
巾 員	3.6	m	最小半径	m
勾 配	最 急	平 均	設 計	t
	%	%	荷 重	

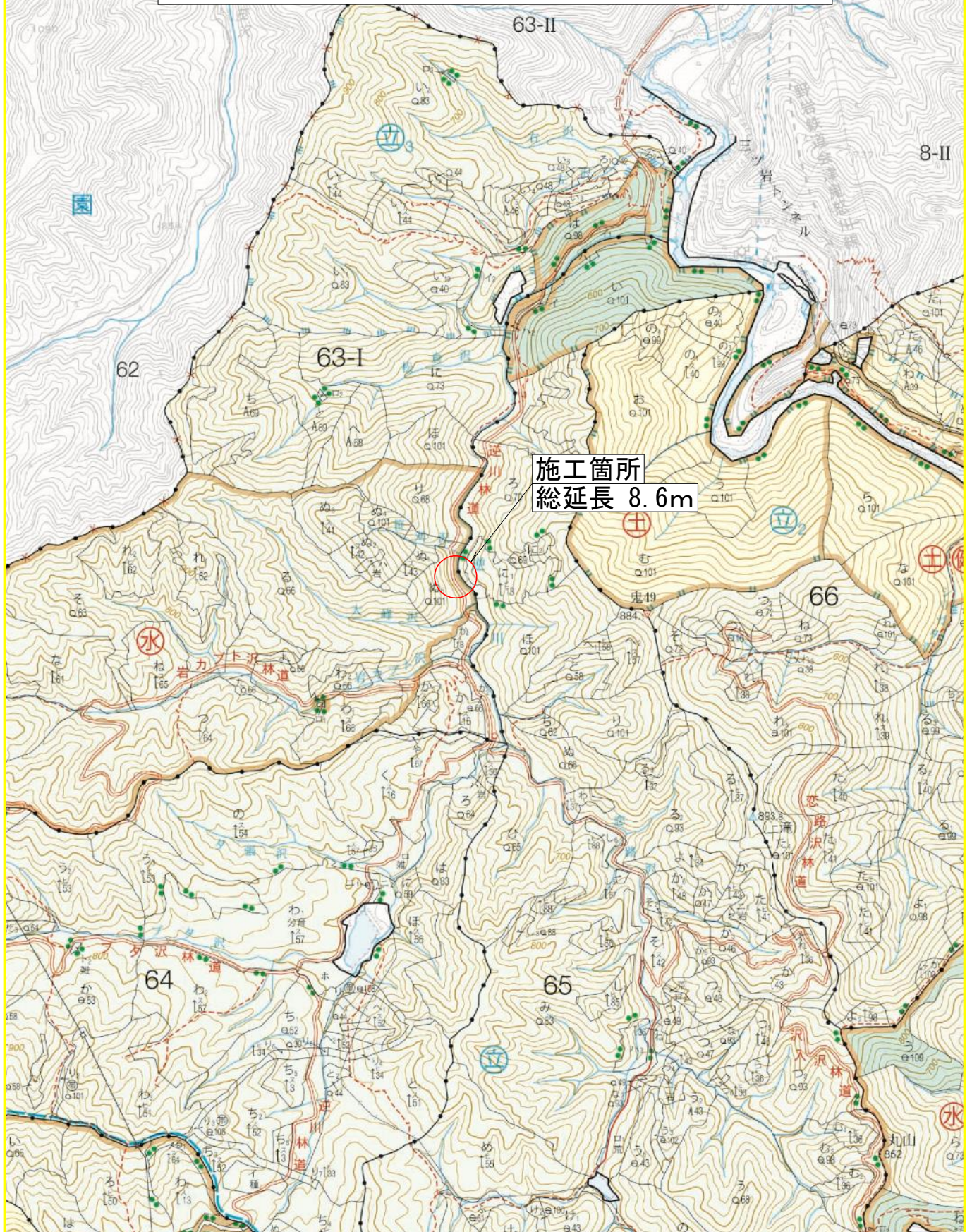
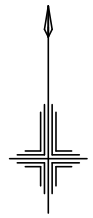
日光森林管理署

位置図

縮尺 S=1:20,000

路線名 : 逆川林道

施工地 : 栃木県日光市鬼怒川温泉滝字丸山国有林63- I め5林小班

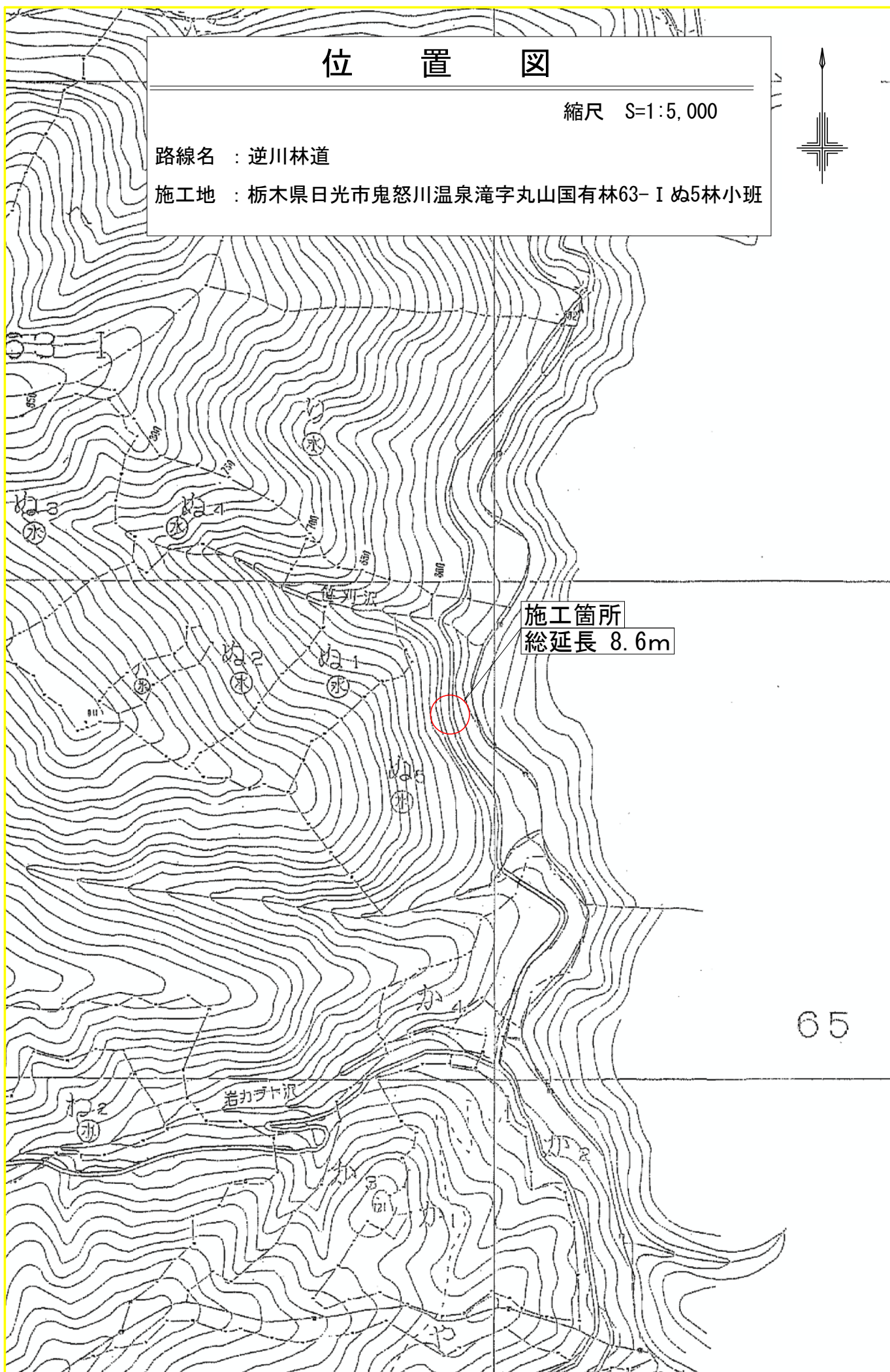
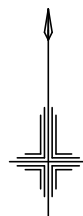


位置図

縮尺 S=1:5,000

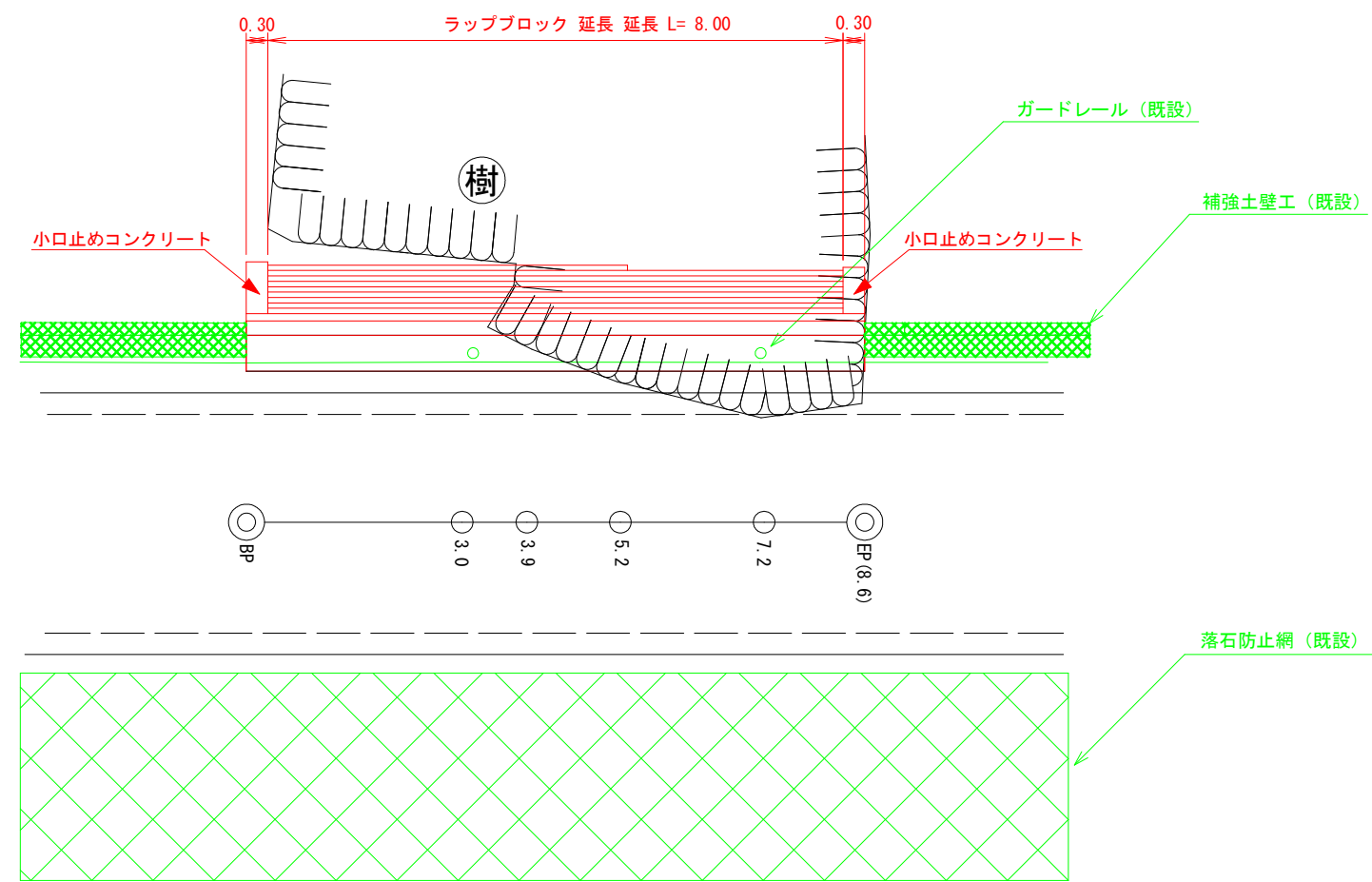
路線名 : 逆川林道

施工地 : 栃木県日光市鬼怒川温泉滝字丸山国有林63- I ぬ5林小班



平面図

S=1:100



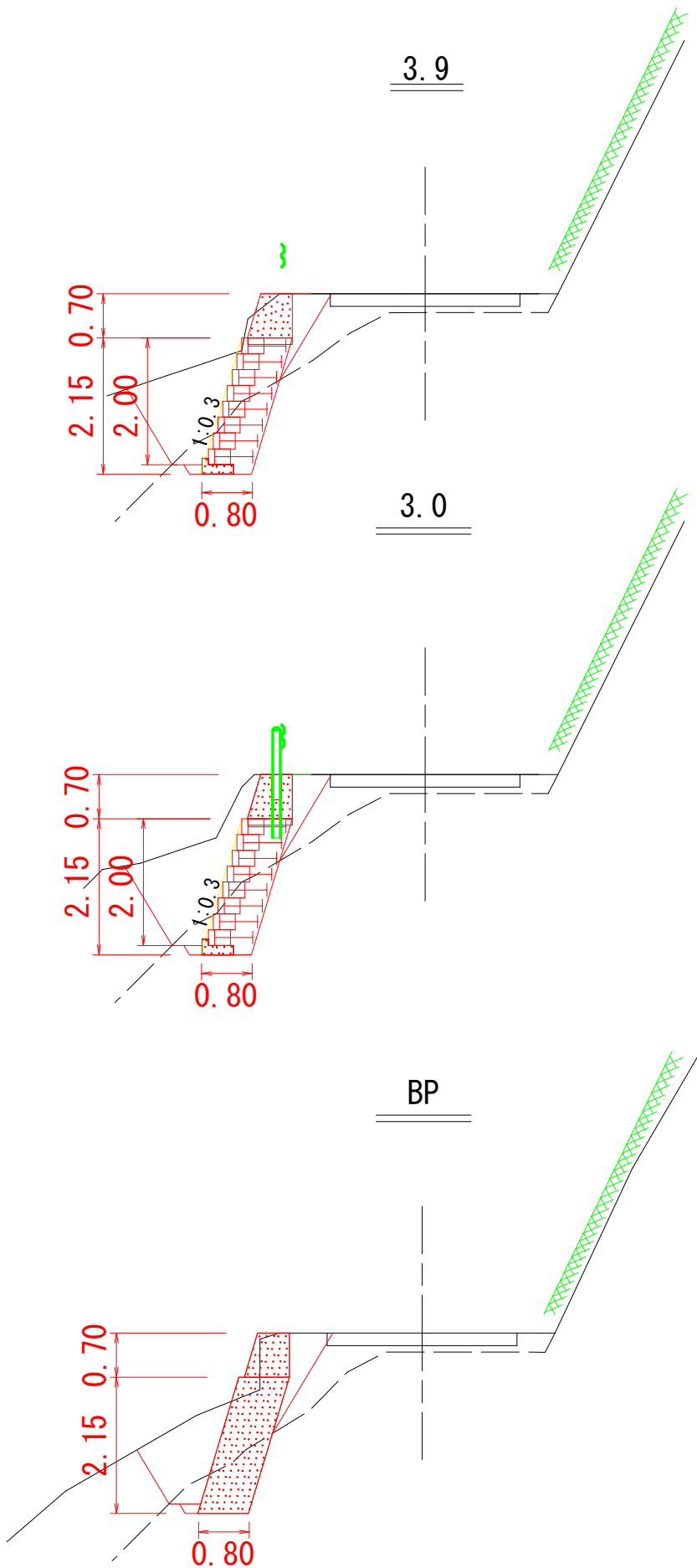
設計条件		
土質定数	裏込材	背面土
盛土材の単位体積重量	$\gamma = 20 \text{ k N/m}^3$	$\gamma = 20 \text{ k N/m}^3$
盛土材の内部摩擦角	$\phi = 35^\circ$	$\phi = 35^\circ$
盛土材の粘着力	$C = 0 \text{ k N/m}^2$	$C = 0 \text{ k N/m}^2$
活荷重	$q L = 10 \text{ k N/m}^2$	
雪荷重	考慮しない	
設計水平震度	考慮しない	
擬似擁壁の外的安定	単位	常時
地盤反力	k N/m^2	$Q1=69.596$
支持力の安全率		$Fs \geq 3.0$
必要な極限支持力	k N/m^2	$q u = 208.788$

特記事項
- 盛土材は以下に示す土質材料もしくは岩石質材料を使用すること。 (土質材料) : 細粒分の含有量が 25 % 以下のもの。 (岩石質材料) : 最大粒径が 200mm 以下の硬岩ずり、もしくはスレーキング率 30% 以下の軟岩ずりで、細粒分の含有量が 25 % 以下のもの。 - 施工時に補強土壁背後の掘削面に湧水が確認された場合は、設計図に示された排水工とは別に排水対策を施すこと。 - 基礎地盤の極限支持力が、上記の必要な極限支持力以上であることを確認すること。

施工管理基準値	
項目 (頻度)	
盛土材の締固め度 (盛土材 500m ³ に 1 回)	- JIS A 1210 の A, B 法による最大乾燥密度の 95% 以上又は、C, D, E 法による 90% 以上とする。 - 細粒分含有量が多い場合 (20% 以上) で上記締固め度が得られない場合は、空気間隙率を 13% 以下とする。 - 岩石質盛土材の場合は、工法規定方式で管理するものとする。

横断図

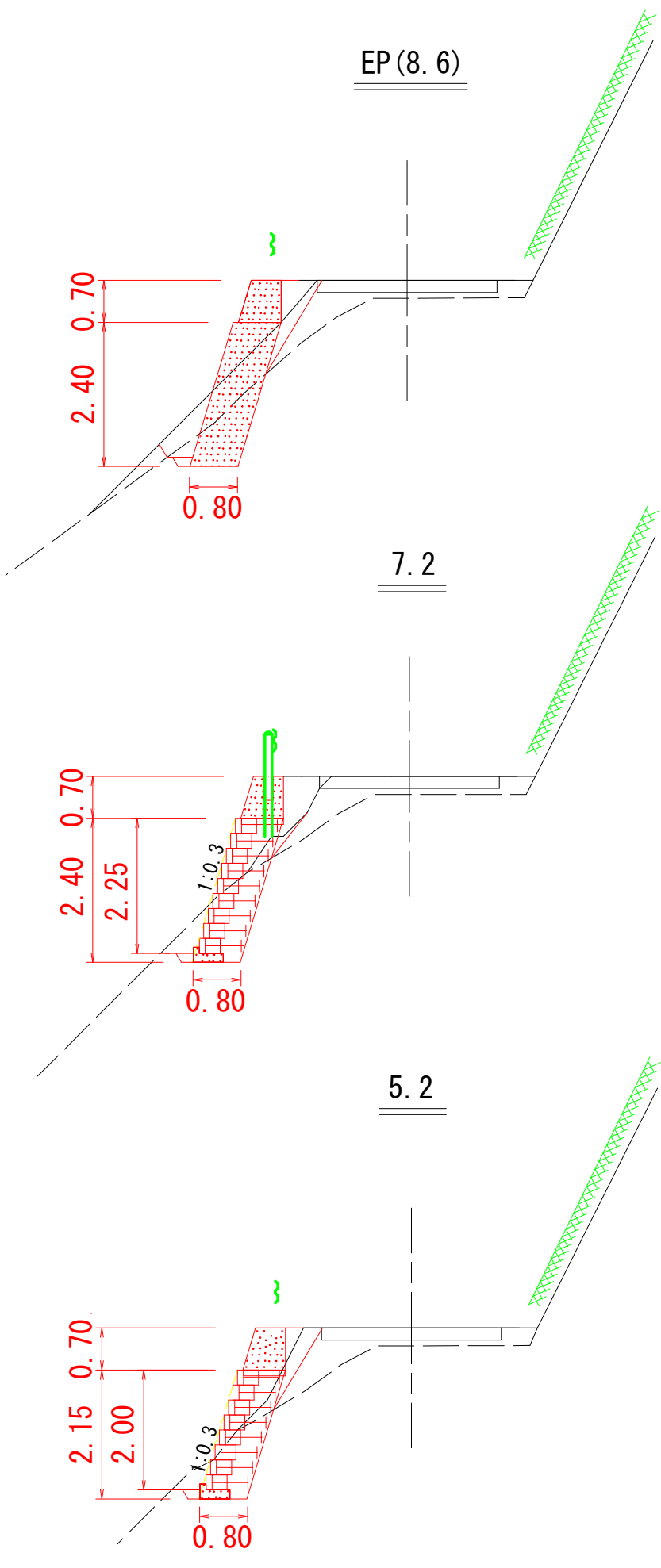
S=1:100



S1 CA =3.1
R1B CA =1.1
BA =0.1

S1 CA =3.4
R1B CA =1.1
BA =0.1

S1 CA =2.8
R1B CA =0.9
BA =0.1



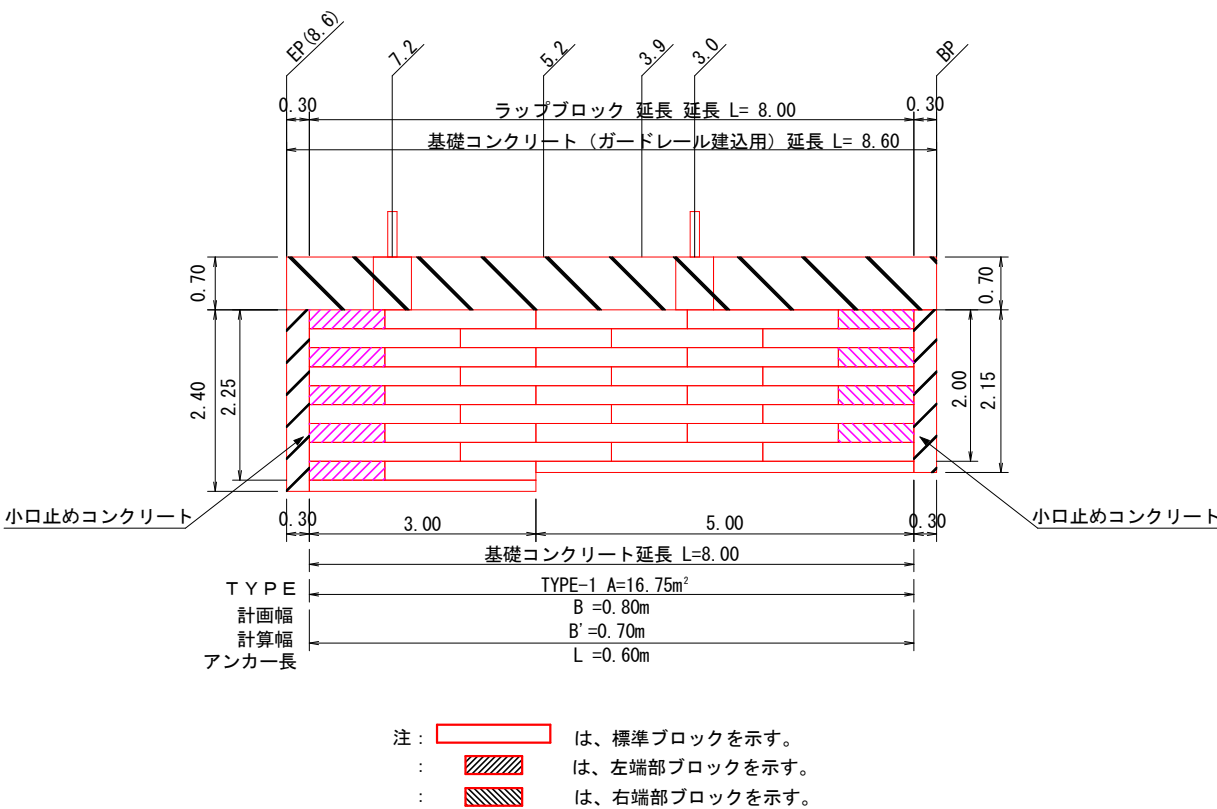
S1 CA =1.2
R1B CA =0.9
BA =0.1

S1 CA =0.1
R1B CA =1.4
BA =0.1

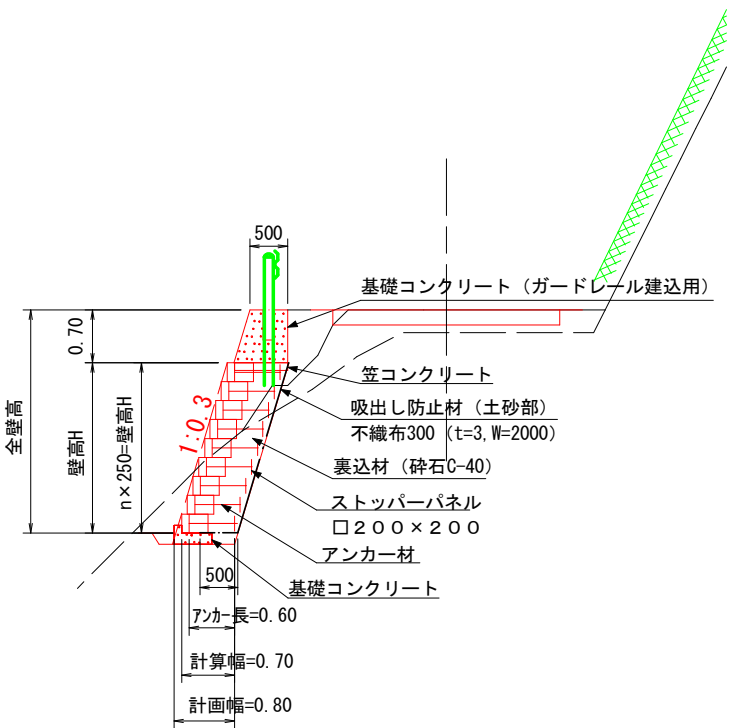
S1 CA =0.4
R1B CA =1.1
BA =0.1

ラップブロック 多段積工法 計画図

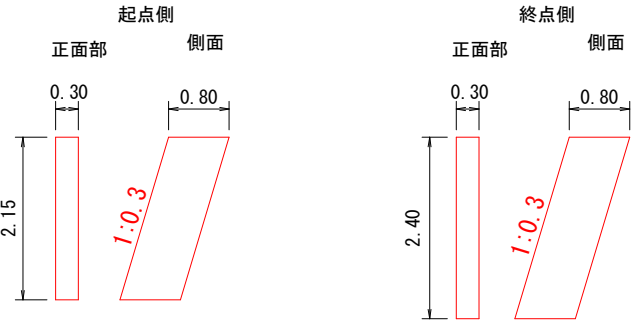
展開図 S=1:100



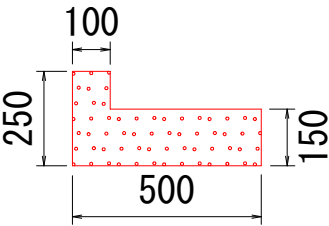
標準横断面図 S=1:100



小口止コンクリート工詳細図 S=1:100



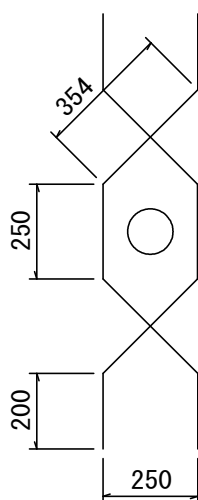
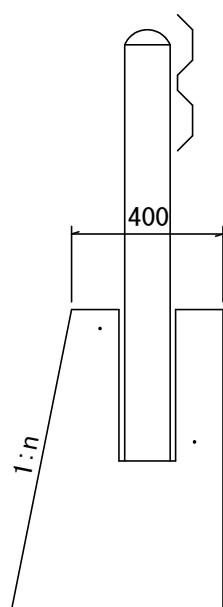
基礎コンクリート詳細図 S=1:20



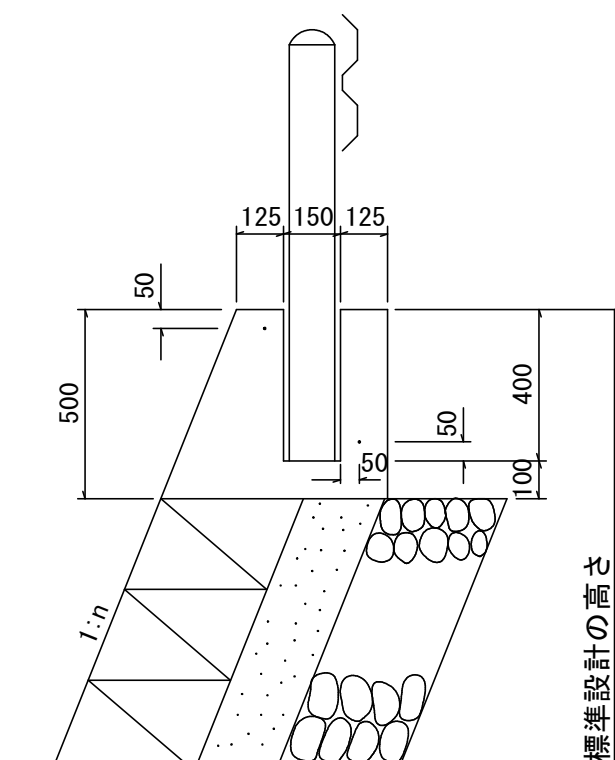
基礎コンクリート（ガードレール建込用）

S=1:20

重力式



ブロック



鉄筋表

径	長さ	本数	単位重量	1本当たり重量	重量
D13	1358mm	2	0.995kg/m	1.351kg	2.70kg